

[演題7]

回復期リハビリテーション病棟における脳血管障害の在宅復帰に及ぼす影響～注意障害に着目して～

崎本 史生^{1, 2)}, 藤原 瑞穂³⁾, 大庭 潤平³⁾

- 1) 神戸リハビリテーション病院
- 2) 神戸学院大学大学院総合リハビリテーション学研究所
- 3) 神戸学院大学総合リハビリテーション学部作業療法学科

1. はじめに

回復期リハビリテーション(以下、回復期リハ)病棟の目的は、1. ADLの向上、2. 寝たきりの防止、3. 家庭復帰が挙げられる。回復期リハ病棟の対象の多くは、脳血管障害、骨折等であるが、脳血管障害者の症状は多様であり、運動麻痺に加え、高次脳機能障害を伴うことが多い。特に、脳血管障害者に多く出現する注意障害は、日常生活やリハの阻害である。カンファレンスでは、一人で留守番が可能なのか、家族の介護負担はどうなのかなどが話され、在宅復帰を難渋させる要因の一つとして思われる。在宅復帰に関わる報告では、Functional Independence Measure(以下、FIM)について、認知症の重症度についてなどの報告はみられたが、注意障害と在宅復帰についての検討はあまり見当たらなかった。そこで、本研究では、在宅復帰に注意障害が及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

2. 対象と方法

対象は、平成25年度4月1日から平成27年3月31日に、当院に入院した初発のテント上病変の脳血管障害者731名とした。その中から、除外項目である死亡、急変による転院、失語症、失行症者に加え、退院時に注意障害に関する検査が不可能であった者、基本情報が欠如したものを除いた108名を

比較検討した。方法は、既に診療が行われた対象者の診療・評価記録を後方視的に調査した。対象者のうち在宅へ退院となったもの(以下、在宅群)と、老健などの施設へ退院となったもの(以下、非在宅群)とに分類した。分析項目として、1) 基本的属性、2) 麻痺重症度にBrunn Strom Recovery Stage(以下、BRS)、3) 神経心理学検査(HDS-R, MMSE, TMT)、4) FIM(運動項目合計:FIM-M, 認知項目合計:FIM-C)について分析した。統計処理は、IBM SPSS Statistics 22を使用し、2群の各項目における比較に単変量解析としてunpaired t-test, Mann-Whitney U test, χ^2 検定を用いた。それぞれの検定において有意水準は全て5%未満とした。

3. 結果

基本的属性においては、年齢・性別等には差を認めなかったが、入院期間は在宅群 91.3 ± 38.5 日、非在宅群 122.4 ± 22.1 日と在宅群で有意に短かった。同居家族数は、在宅群 1.6 ± 1.3 人、非在宅群 1.1 ± 1.1 人で有意な差は認めなかったが、両群とも独居は少なかった。麻痺重症度においては、在宅群は約半数以上がBRS V以上で比較的軽度のもが多く、非在宅群も半数近くが軽度だったが、2群に有意な差はみられなかった。神経心理学検査の結果では、認知機能を評価するHDS-R, MMSEは在宅群の方が良好で、MMSEには有意差を認め

たが、両群ともに平均値はカットオフ値より高く、認知機能は比較的良好であった。注意障害を評価するTMTに関しては、2群ともに在宅群のほうが良好で、partBには有意差を認めた。FIMにおいては、FIM-M・FIM-Cの合計点、FIM合計点の全てで在宅群が有意に高値であった。

4. 考察

本研究で、在宅復帰に関わる因子として、入院期間、注意障害、ADLが挙げられ、同居家族数に有意な差はみられなかったが、独居は少なかったことから家族のマンパワーも重要であることが考えられた。在宅群の入院日数は、全国平均とほぼ同様の結果となっており、適切な日数の中で在宅への準備を進めていくことが重要であると思われた。また、年齢・性別、麻痺重症度に有意な差はなく、認知機能も良好であったにも関わらず、FIMの各項目は在宅群で高値であったことから、注意障害の影響は在宅復帰に影響を及ぼすとともに、ADLの改善等にも関与している可能性が示唆された。

5. 本研究の限界

本研究は、後方視的研究であり、対象者の選定はデータが確保できたもののみであった。そのため、検査が実施できなかったものについては検討することができなかった。また、注意障害に関わる検査は、机上検査のみであったことから、注意障害がどのような場面で影響を及ぼしているかを具体的に調査することが困難であった。今後は、実際に在宅生活を送る患者・家族にインタビューを実施・分析を行うことで、注意障害の影響を具体的に抽出し、回復期リハ病棟における在宅復帰の支援を考えたい。

本報告は、修士論文の一部である。